

この冬、数年に一度と言われるレベルの大寒波が次々と襲来しましたが、季節は確実に進み、柔らかな優しい雨が大地を潤わせ、春の息吹が感じられるようになりました。本日ここに、御来賓の皆様、御臨席と、保護者の皆様、第20の回ご卒業の同窓の方々の御列席を賜り、令和六年度愛媛県立松山北高等学校卒業証書授与式が挙行できますことは、大きな喜びです。学校を代表致しまして、厚く御礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました三百三十九名の皆さん、御卒業おめでとうございます。ございます。

昨年四月に赴任しましたので、北高で皆さんと共に過ごした時間は、たった一年間でしたが、実は、昨年北高を卒業した愚息から、皆さんのことは、皆さんが入学した時の事からよく聞いてました。「北高は毎年凄い人たちが入ってくる。自分なんかすぐに弾き飛ばされてしまうよ。」

実際、本物の皆さんを見て感じたことがあります。それは、北高に脈々と受け継がれてきた伝統にしっかりと守られながら、皆さんから醸し出される“美しい心”です。まさに、それが“澄みたる瞳”と言えるかもしれせん。

高校入学に当たって、いくつかの選択肢がある中で、皆さんはこの北高を選んできました。選んでくれたといっても、毎年県下トップの倍率を誇る北高の入試を突破したわけですが、その勝ち取った中での3年間、北高での生活はどうでしたか？

どの学校もそうですが、北高にも、いろいろなタイプの生徒がいます。自分とは合わない、嫌いな子もいたでしょう。嫌いな先生もいたでしょう。勉強も部活動も習い事もうまくいかないこともあったかもしれません。しかし、それこそが社会の縮図で、学校というところは学びの場、そして、成長する場所です。困ったとき、苦しいとき、考えて試行錯誤して、時にはつまづき、助けてもらいなから、最後は自分で乗り越えていく場所、それが学校です。進路を決定させた皆さん、おめでとございます。よく頑張りました。まだまだ戦っている皆さん、苦

しんだ分、その喜びは大きなものとなります。あきらめなければ、失敗でもなんでもありません。「若いころの苦勞は買ってでもしなさい。」と先人たちはよく言ったものです。今日、高校卒業という資格を得た皆さん全員に言えることは、「よくぞ、多くの高い壁を乗り越えました。」ということですよ。

サッカー部三年生の皆さん、年末年始のサッカー部の大活躍を見て、複雑な気持ちになった時もあったかもしれない。しかし、皆さんがいたから、森くんはみんなの想いを背負って戦うことができたし、後輩たちは先輩に見てもらおうと頑張れたのです。全国選手権大会ベスト16という、北高史上誰も見たことがなかったステージに繋がったのは、皆さんとの時間があつたからです。サッカー部だけではありません。どの部活動も、あるいは個別でされている習い事も、先人がいるから、後輩が育つのです。どうか卒業される皆さん、胸を張ってください。

もう一つ、「笑う門には福来たる。」という言葉をも、皆さんに送りたいと思います。私は、本当の悲しみや苦しみを知って、初めて、笑いの価値が高まると思っています。笑いの本質は、いつもヘラヘラしていたり、だれかを笑いものにするとかでは決してありません。人の痛みや苦しみ、悲しみを知って、そして、心の底から日々笑える人になってください。そうすれば、必ず福がやってきます。

保護者の皆様、本当によくぞこの素晴らしいお子様たちを北高に來させて下さいました。20世紀初頭、日本を守った、あの秋山好古の想いが受け継がれている、全国でも類を見ないスケール感のある、この伝統校を卒業されるお子様たちは、本日我々の手から離れます。とても寂しいけれど、心からお祝い申し上げます。

今年の卒業式は、ずっと慣れ親しんだ県下最大規模を誇る北高体育館ではなく、ここ県武道館での式典となりましたが、北高史上初の、歴史に残る卒業式になったことは間違いありません。ご出席の皆様は心おきなく自家用車で来ることでできたでしょうし、なによりも、愛媛県ナンバーワンの公共施設での卒業式を挙げてきている学校は北高だけです。今年度には、福山雅治、バックナンバー、あいみょんもやってきて、ライブが行われましたが、その主役たちと並ん

で、今そこに皆さんが座っています。どうよ。こんなことある？さすが皆さんです。

高校卒業で、人として完璧とか完成ももちろんありません。皆さんの成長はまだまだこれからも続きます。しかし、相対的に見て、現時点で決して他に負けていません。どうか、「あの松山北高校で学んだ誰々です！」と宣言しながら前へ進んでください。皆さんがそれぞれの場で社会貢献する姿を信じて応援しています。愛媛県立松山北高等学校ご卒業、誠におめでとございます。

令和七年三月一日

愛媛県立松山北高等学校長

井上 浩